



Title	情報資源共有化研究会 第2回海外調査報告：地域研究コンソーシアム
Author(s)	結城, 憲司; 原, 正一郎; 兔内, 勇津流; 五島, 敏芳; 加藤, さつき; 上田, 誠治
Citation	科研プロジェクト第5回研究会 (2006年12月22日-23日, 島根県立大学メディアセンター) 「アフロ・アジアの多元的情報資源の共有化を通じた地域研究の新たな展開」
Issue Date	2006-12-22
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/17007">http://hdl.handle.net/2115/17007</a>
Rights(URL)	<a href="http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/">http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/</a>
Type	conference presentation
Note(URL)	<a href="http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/jcas/infoshare/">http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/jcas/infoshare/</a>
File Information	jcas_report20061222rev2.pdf



[Instructions for use](#)

地域研究コンソーシアム

# 情報資源共有化研究会 第2回 海外調査報告

2006年11月1日～11月10日

アメリカ合衆国

(ダブリン, シカゴ, カレッジパーク, ワシントンDC, オークランド)

結城 憲司 (発表者), 原 正一郎, 兎内 勇津流, 五島 敏芳, 加藤 さつき, 上田 誠治

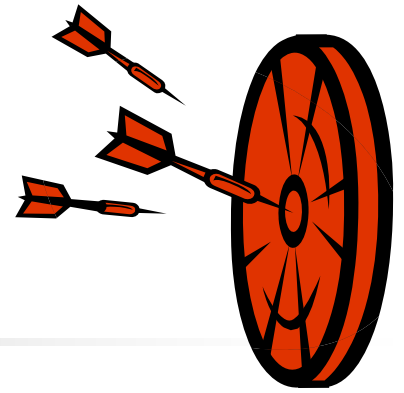
科研プロジェクト第5回研究会「アフロ・アジアの多元的情報  
資源の共有化を通じた地域研究の新たな展開」

2006年12月22日, 島根県立大学メディアセンター2階多目的演習室



# 目的

---



- 個別の大学や図書館の枠を越えた地域研究資料の収集と公開の実際について調査すること。
- 文書館等、図書館と関連の深い機関についても調査すること。
- 上記に関連する電子的技術や機関連携のあり方について調査すること。

# 参加メンバー



- 原 正一郎（京都大学地域研究総合情報センター教授）
- 兎内 勇津流（北海道大学スラブ研究センター助教授）
- 五島 敏芳（国文学研究資料館助手）
- 加藤 さつき（東京外語大学情報図書館課情報サービス係）
- 上田 誠治（東京外語大学情報図書館課図書情報係）
- 結城 憲司（北海道大学経済学研究科図書係）

## <途中参加>

- 坂井 千晶（アイオワ大学図書館） 11/3のみ
- 大川 光弘（インフォコム(株)） 11/6～
- 岩杉 大輔（インフォコム(株)） 11/6～
- 伊佐地 浩代（インフォコム(株)） 11/6～







# 調査日程・訪問先



2006年11月1日～11月10日 6機関を訪問

- 11/2 **OCLC** (Online Computer Library Center)  
(ダブリン、オハイオ州)
- 11/3 **CRL** (Center for Research Libraries)  
(シカゴ、イリノイ州)
- 11/3 **Chicago大学図書館** (シカゴ、イリノイ州)
- 11/6 **NARA** (National Archives and Records Administration)  
(カレッジパーク、メリーランド州)
- 11/6 **ARL** (Association of Research Libraries)  
(ワシントンDC)
- 11/8 **CDL** (California Digital Library)  
(オークランド、カリフォルニア州)





# 1. OCLC (その1)



- 元々は、1967年に設立された世界最初の書誌ユーティリティ（現在は世界最大：書誌6200万件、所蔵10億件以上）。
- 現在は、書誌ユーティリティ以外の図書館事業も手広く展開する非営利・メンバー制のライブラリーサービス機関（5万以上の図書館が参加）。
- 2006年に、最大の競争相手だったRLGを吸収することを発表。



# 1 . OCLC (その2)

---

- RLGとの統合： 2007年中には統合完了
- Contents DM
- World CAT： オープン化、Googleとの連携
- OCLC目録上の多言語・文字への対応
- 電子ブック (OCLC NetLibrary eBook)
- NACO (典拠共同作成事業)： LCとの共同作業





NetLibrary eBook Pricing Model

NetLibrary

- Libraries **purchase and own** eBooks purchased
  - NOT a renting model
  - ✓ eBook list price **SAME** as that of hard-bound print book
  - ✓ eBook list price established by publishers
- Content Service & Support (CSS) Fee
  - ✓ **Annual:**  
\$15% of the retail content fee, paid annually
  - OR
  - ✓ **On-going:**  
55% of the retail content fee, paid once only

## 2 . CRL (その1)



- 北米を中心に大学図書館や研究図書館により構成される非営利のコンソーシアム。前身は1949年創立、1965年今の名前に改称。
- 参加機関は約200で、規模に応じた会費制。
- 人文社会学系を主とし、地域研究も含む。
- CRLとして資料を所蔵する一方、世界各地の雑誌や新聞のマイクロフィル化などの情報資源の保存事業や電子図書館の構築など、積極的に活動を展開。



## 2 . CRL (その2)

---

- 組織・予算
  - 会費収入が約75%、助成金が約15%
  - 職員：約40名
- 複写の9割がArialによるpdfファイル送信で受付からほぼ一日、貸借も一両日で発送。資料によっては長期に参加館への貸出も行っている。



## 2 . CRL (その3)

---

- 地域資料のマイクロ化・電子化：アフリカの新聞、ラテンアメリカ、南アジア等
- Global Resources Network：フランス、ドイツ、ラテンアメリカ等の国外機関との協力。
- 北米以外の参加機関：香港
- GIF(グローバルILLフレームワーク)について報告(坂井氏から)











## 3. シカゴ大学図書館 (その1)

---

- 全米最大規模の大学図書館のひとつ(蔵書数700万冊以上)。
- 7つの図書館のうち、「人文学・社会科学・ビジネス」を専門とするJoseph Regenstein Libraryを訪問。
- 1970年創立の建物。地上5階、地下2階。

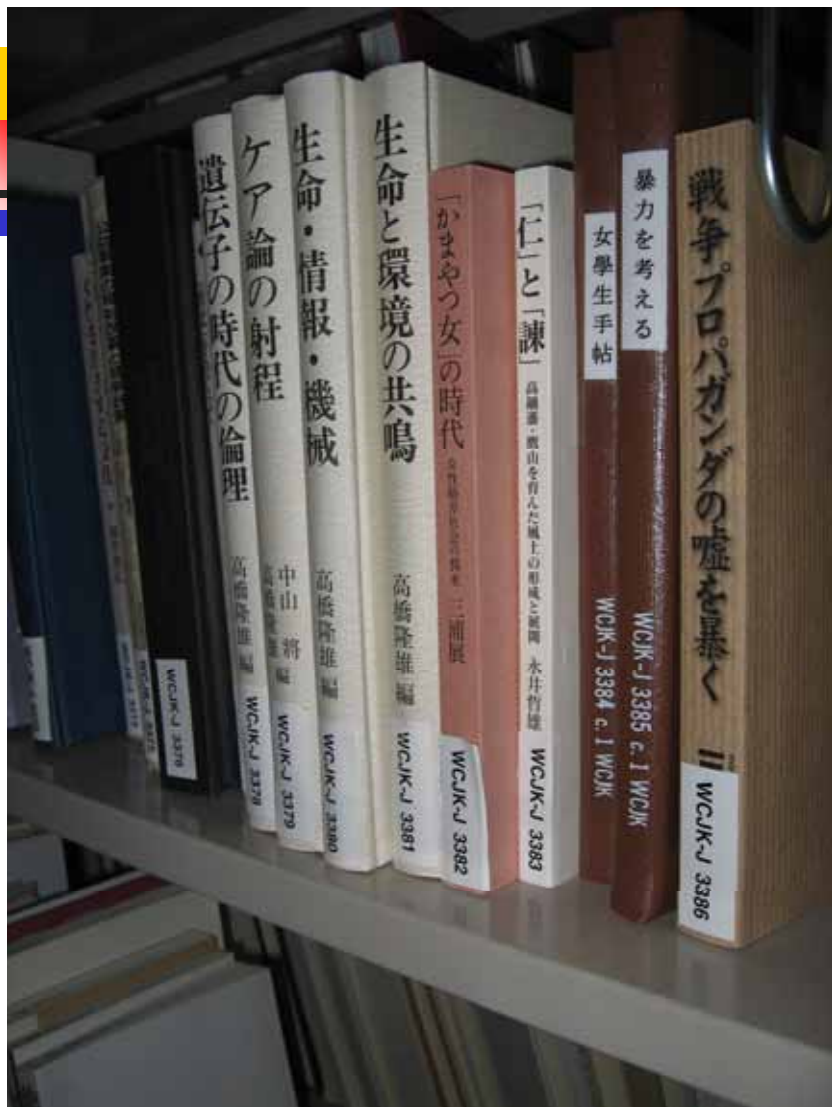


### 3. シカゴ大学図書館 (その2)

---

- 各グループ(日本、ロシア、南アジア等)に別れ、コレクションの紹介や情報交換。
- 選書については、主題専門司書(26の学問分野に1名)が行う。
- 現地語の目録作成については、特定言語の知識を持つ非常勤職員で対応。コストと労力が掛かる。
- CRLとの協力。







## 4 . NARA (その1)



- アメリカ合衆国の国立の文書館(前身は1934年に設立)。
- 書類・記録のうち1～3%だけを永久に保存し、一般の利用に供している。
- 建物は、体験施設として機能するArchives I (ワシントンDC)と、大部分の記録史料が管理されている Archives II (カレッジパーク)とに分かれる。





## 4 . NARA (その2)

---

- 残念ながら , アポイントメントがうまく行かず , Archives IIの館内ツアーのみとなった。
- 記録資料検索のツールを提供するALIC (記録史料図書館情報センター)が館内に設置。
- 記録資料の収蔵庫は、日本と大きな違いがない。

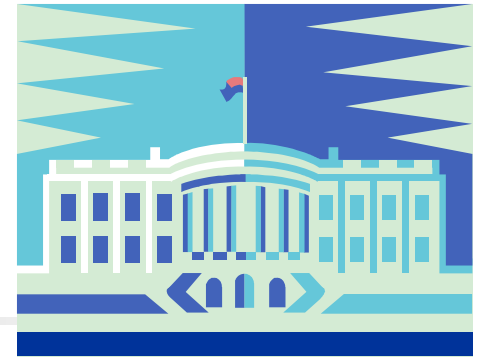






## 5 . ARL (その1)

---



- 1932年に創立された北米の大学図書館等(123の機関)により構成される図書館協会(非営利団体)。
- 参加機関は、規模が大きく、研究をメインとした大学図書館が多い。
- 参加機関の毎年の総資料費は、10億ドルを超える。



## 5 . ARL (その2)

---

### ■ 組織

- 理事会12名:館長クラス
- スタッフ24 + 10名

### ■ 著作権関係

- 著者(研究者)の意識向上
- 他の図書館協会とともにロビー活動

### ■ Googleやコーネル大学の電子化プロジェクト

## 6 . CDL (その1)



- カリフォルニア大学の図書館の一つ(11番目)。1997年創立だが、その前身は1960～70年代。
- 本は全く所蔵せず、電子的なコンテンツを取り扱う。
- University of California Office of the President 直属の組織であり、キャンパスを越えたプロジェクトや調整を執り行う。



## 6 . CDL (その2)

---

### ■ 組織・予算

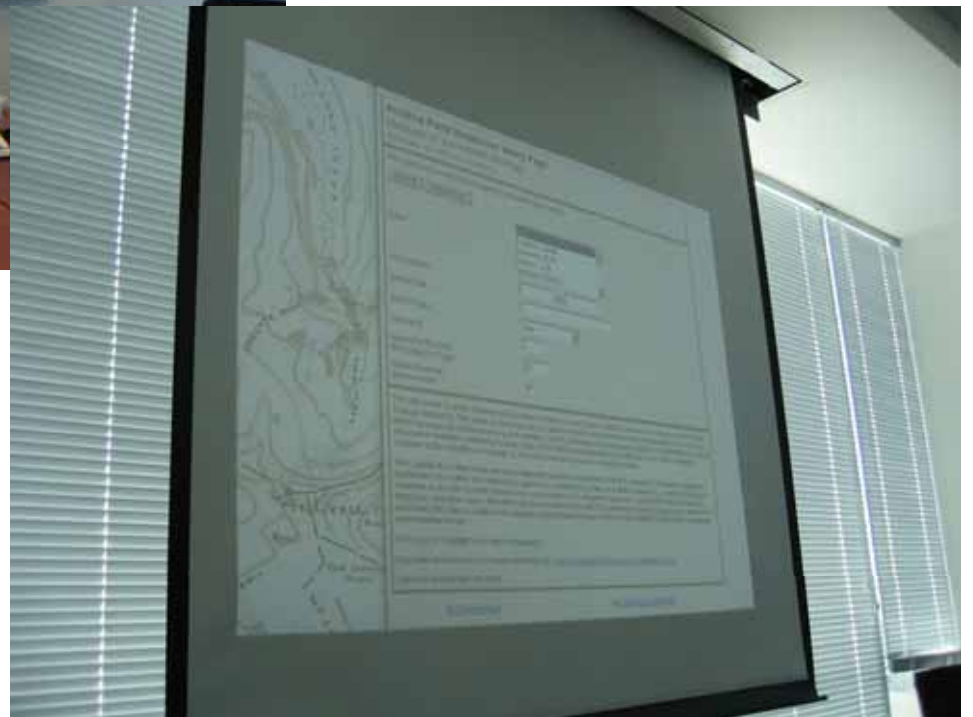
- CDL 70人(あちこちに分散)
- UCの予算:コア 1600万ドル(州からの予算に該当)、  
デベロップメント:500万ドル
- SOPAG Systemwide Operations and Planning Advisory Group

### ■ 電子コンテンツの選定

- e-scholarship(機関リポジトリ + 電子出版)
- Portico(EJバックファイルアーカイブ)









## 7. 総括 (その1)

---

- 10日間で6機関を訪問できたこと、特に複数の図書館の連携組織を訪問できたことは、貴重な経験だった。ただ、期間が長すぎる、もしくは、頻繁な移動を伴う過密なスケジュールだったという意見もあった。
- 教員と資料管理系の職員が共に調査するというスタイルは非常によいが、できれば同一機関から両者が参加するのが望ましい。



## 7. 総括 (その2)

---

- 今回は、京都大学の原先生や国文学研究資料館の五島先生の参加により、図書館とは違った視点から指摘があり、非常に刺激的であった。
- 今回の経験を個人的なものに留めない工夫が必要ではないか。
- もっと多くの機関から参加があるように、広報活動を工夫すべきである。